



10年前、ケンジントン宮殿の周囲はダイアナ妃の死を追悼する人たちの、100万個を超す花束で埋め尽くされた ©Ralf-Finn Hestoft/CORBIS



悲しんでいるのか、はたまたあまりの人気に呆然としているのか? ©Anwar Hussein/WireImage.com



事故が起きたパリのトンネルの上には、こんな非公式モニュメントも出現 ©Marc Susset-Lacroix/WireImage.com



ダイアナ妃の事故死を悲しみ、涙するイギリスの女性たち ©Peter Turnley/CORBIS

今なお輝き続けるプリンセス  
Legend of Princess Diana  
**ダイアナ妃**  
という伝説  
Text: KAORI NAKANO

最終回

# ダイアナ妃がもたらした「革命」

The Consciousness Reformer



この夏、没後10年を迎えたダイアナ妃。その鮮烈な存在感は、今もなお薄れることはありません。この連載では、英国文化に通じた中野香織さんが、ダイアナ妃の真の魅力と、現在の視点から分析してきました。

最終回のテーマは、ダイアナ妃が保守的なイギリス社会にもたらした“意識改革”について。自己の感情に忠実すぎた彼女の人生は、冷静で忍耐強いことを美德としたイギリスの人々をどのように変えたのでしょうか。



ダイアナ妃10回忌にあたり、ケンジントン宮殿に花を手向ける人。ダイアナ妃が人々から、今なおこれほどまでに愛され続けている理由は何なのだろうか ©Andy Rain/epa/CORBIS

文・中野香織

なかの・かおり エッセイスト・服飾史家。1962年生まれ。東京大学文学部および教養学部卒業。東京大学大学院総合文化研究科博士課程単位取得。イギリスのケンブリッジ大学客員研究員などを経て文筆業に。イギリスとその文化にも詳しい。連載記事は日本経済新聞、朝日新聞ほか多数。近著は『着るものがない!』『モードの方程式』(共に新潮社刊)など。訳書も多数手がけている

## ダイアナ妃はイギリス人であることの、新しい道を教えてくれた

ダイアナ妃とその死が社会にもたらした少なからぬ影響と変化について

今年6月、「タイム」誌はダイアナ妃のことをプリンセス・オブ・ウェールズならぬプリンセス・オブ・セールス（Princess of Sales）と呼んだ記事を掲載した。

ダイアナ妃は、売れるのである。没後10年経過してもなお、2007年度だけで、アメリカとイギリスでは少なくとも15冊のダイアナ関連本が出版された。肖像が刻まれた記念コインは驚異的な売り上げを誇り、レディ・ダイナ形はマリリン・モンロー人形やジャッキー・オナシ人形よりも売れた。

人々にモノを買わせるだけではない。ダイアナ妃の記念基金には、没後、寄付金が殺到した。写真のなかで子どもを抱くダイアナ、地雷地帯を歩くダイアナ、エイズ患者にふれるダイアナが、サイレントスポークスマンとして力を発揮し、大金を集めるのである。

また、医療界にも「ダイアナ効果（Diana Effect）」が起きた。ダイアナ妃の葬儀後、うつ病で病院を訪れる人が激減した。現在、がんをはじめ重い病気やDV・自殺未遂などのつらい経験を公表することがあたりまえに行われているが、この現象もまた、BBCインタビュで彼女が摂食障害を告白して以来の流れ、「ダイアナ効果」のひとつだろう。

そんなわずかの事例からも、ダイアナ妃が社会に少なからぬ変化をもたらしたことがわかる。いったいダイアナ妃の何が私たちの心をそれほど強くゆさぶるのか。

おそらく、ダイアナ妃の「感情」である。悲しみのどん底から喜びの絶頂まで、振り幅大きく感情を動かしてくれる映画や音楽は、くりかえし観たり聴いたりしたくなるものだが、ダイアナ妃の物語を読むのもそんな経験に近い。実際、ダイアナ妃は自分の感情にお



パキスタン訪問時、病院で子どもたちを抱いて  
Anwar Hussein/WireImage.com



恋人だった? カーン医師  
©STAN KARCZMARZ/CORBIS SYGMA



ハロッズ内にできた、ダイアナ妃とディ・アル・ファイドの記念碑  
©POLAK MATTHEW/CORBIS SYGMA Tim Whitby/WireImage.com



大ヒットしたダイアナ人形  
©POLAK MATTHEW/CORBIS SYGMA

### DIANA'S COLUMN

#### 今もなお、ダイアナ妃はチャリティの“顔”

去る8月のペルー地震の被災者に支援を展開している、子ども支援の国際NGOセーブ・ザ・チルドレンに対し、世界的なペルー人写真家マリオ・テストイーノ氏が、ダイアナ妃のサイン入り写真をオークションに出品し、売り上げの全額を寄付すると発表。オークションは11月20日、ロンドンのフィリップスhttp://www.phillipsdeputy.comで行われます。セーブ・ザ・チルドレンへの寄付は 口座番号 00900-1-120760 加入者名 セーブ・ザ・チルドレン 子ども基金 振込手数料は無料。郵便局窓口で、振込手数料無料の口座であることを申し出てください。http://www.savechildren.or.jp/

Mario Testino ©

## ダイアナ妃はイギリス女性が必ずしもオールドファッションでセックスレスな人種ではないことを世界に知らしめた

そろしく忠実で、それを王室メンバーとしては前例のない率直さで表現し続けた。大丈夫かそんなことまで言って...とヒヤヒヤしたことは数え切れない。

しかも皮肉なことに、ダイアナ妃とチャールズ皇太子との結婚が不幸に終わった原因のひとつが、ダイアナ妃が「自分の感情に忠実すぎた」とも分析されている。チャールズはカミラとの関係が発覚してダイアナ妃が激怒したとき、「君はほくを史上初のロイヤルミストレスをもたない王として辱めたいのか?」と逆ギレしたという。王室のメンバーであるということ、愛人も制度(ないし伝統)として受け容れよ、ということも含んでいたのかもしれない。しかし、ダイアナ妃は、ただ一人の女性として夫を愛し愛されたい、という感情に正直だった。感情に正直なあまり、精神のコントロールを失い、摂食障害に陥り、安っぽい愛人に代替の満足を求めていった。

涙を流してダイアナ妃の死を悲しみながら、人々は古い伝統の呪縛から解放された!

素直に愛を求めるゆえに傷ついてしまったかのようなダイアナ妃は、自分が何者なのかわからず混乱し、その混乱を世界に向かって語った。自制・冷静・忍耐・慎みといった伝統的イギリス人の美德とは対極にある、危険きわまりない感情の吐露である。

ところが、反英国的なこのダイアナ主義が、英国を変えた。トニー・ブレア元首相は、「ダイアナ妃は王室メンバーの新しいあり方を見つけたと思うか?」と聞かれて、「いや」と答えている。「ダイアナ妃はイギリス人であることの新しい道を教えてくれた。」

「新しいイギリス人」はダイアナ妃の葬儀にあふれ、世界中を驚かせた。あの冷静で慎まやかなイギリス人が、声を上げて、感情のバルブを全開にして、人目もはばからず涙を流してい

る!? 愛し、苦しみ、笑い、泣き、感謝し、死んだダイアナ妃のように、心の扉を全開にしているのではないが、これは、革命的な事件だったあるジャーナリストにいたっては、葬儀を解放の祝祭(Liberating celebration)と呼んだ。人々は涙を流して悲しみながら、古い伝統の呪縛から解放されていた。

ダイアナ妃が変えた社会が

彼女がもつとも嫌った女性に貢献した皮肉

ダイアナ妃がもたらした革命はそれだけにどまらなない。ゲイや黒人の友人を持ち、エイズ患者に手を伸ばし、摂食障害を語り、産後うつ病を語ることでそうした人や病気に対する世間の偏見を一掃した。イスラム教徒の恋人をもち(心臓外科医ハスナト・カーン)、イスラム教徒とともに亡くなった(ヘディ・アルファイド)ことで、マルチカルチュラルズムを一気に促進した。大胆なモードの着こなし、数多くの恋愛ゴシップを通して、イギリス女性が必ずしもオールドファッションでセックスレスな人種ではないことを世界に知らしめた。王室が安全パイとして選んだ無難なイギリス女性が、だれも予想すらしなかった大革命を社会にもたらしたのである。本人は無自覚のままに。

ダイアナ妃の死の直前、「カミラはクイーンになってよいと思うか?」を問う世論調査では15%が賛成しただけだった。10年経って、同じ質問に賛成と答えた人が38%に上昇した。ダイアナ妃の記憶が風化したためではない。「人は個人としての幸福を追求する権利がある」、「人の心の弱さには共感を示そう」というダイアナ主義が英国民に広まったためである。ダイアナ妃が変えた社会が、彼女がもつとも嫌った女性のためにも貢献したのかと思うと、歴史の苦しい皮肉に切なく胸がしめつけられる思いがする。